

(司会)

ただいまから、令和7年度当初予算・組織定数改正案にかかる知事記者会見を始めます。

本日の記者会見は、令和7年度当初予算・組織改正の各案について、知事が説明をし、その後、記者の皆さまからの質問にお答えいたします。

それでは知事、説明をお願いいたします。

(知事)

よろしくお願ひ申し上げます。

まず、令和7年度当初予算(案)と組織改正(案)の説明に先立ちまして、今後の県政運営に向けた、二つの決意について御説明をいたします。

令和7年度を「2つの元年」に位置付けをいたしました。

一つめは、「チャレンジ元年」です。人口減少や社会を大きく変える技術革新などを前提として、積極的にチャレンジしてまいります。労働の「常識」を根本から変える可能性を秘めた生成AI・デジタル技術を前提とした働き方の変革や、自ら行政課題を発見し、積極的に新たなチャレンジを行う職員を高く評価するよう、人事評価の方針を変更いたします。また、スタートアップ等の民間の知識・経験を一層活用した課題の解決、若手職員からの斬新なアイデアの積極的採用など、組織の変革を推進してまいります。

二つめは、「財政改革元年」であります。新たな取り組みを積極的に進めるため、10年間の中期財政計画を策定し、持続可能で健全な財政基盤の構築に着手をいたします。特に令和10年度までの4年間を「改革強化期間」と定め、集中的に行財政改革の取組を強化をいたします。

次に、予算編成・組織改正の基本的な考え方についてでございます。「幸福度日本一の静岡県」の実現を目指し、次期総合計画の経営方針に沿って、2つの方針のもとで、予算と組織を編成いたしました。

予算においては、次期総合計画の8つの重点取組のほか、現場を熟知する各部局長からのボトムアップの提案をもとに、「未来を拓く積極的なチャレンジ」に対し、集中配分しました。

組織においては、次期総合計画の経営方針のもと、政策を実行する段階に移行することから、企画立案や部局横断調整の機能を強化するため、新たに企画部を設けるなど、推進体制を強化する見直しを行いました。

次に、令和7年度当初予算の規模でございます。

一般会計は1兆3,723億円で、前年度から563億円、4.3%の増となりました。なお、税交付金、選挙経費等の特殊分を除いた場合、1兆3,696億円となり、前年度比27億円の減となっております。

特別会計と企業会計をあわせた全会計では、2兆4,090億円となり、前年度より1,226億円、5.4%の増となっております。

一般会計の歳出・歳入の特徴でございます。

まず、歳出ですが、義務的経費は、高齢化に伴う医療・介護等の社会保障経費の増などにより、100億円の増、税収関連法定経費は、税収の増に伴う市町への税交付金の増加によりまして、302億円の増となっております。

続いて歳入ですが、一般財源等は、企業収益の回復による法人2税の増等により、475億円の増、特定財源は、公立学校のGIGAスクール端末の更新に伴う繰入金の増等により88億円の増となっております。

方針1 幸福度日本一の静岡県の実現についてでございます。こちらに記載のⅠ～Ⅲの3つの柱に沿って、順に御説明をいたします。

最初に、8つの重点取組について、御説明をいたします。

まず、伊豆半島をはじめとした防災の推進についてです。能登半島地震を教訓として、伊豆半島をはじめとした防災の取組を強化してまいります。

令和6年度は、発災直後に顕在化した課題に対し、感震ブレーカー補助を設けるなど迅速に対応いたしました。

令和7年度は、国の報告書で示された対策を踏まえ、必要な取組を強化いたします。

令和8年度は、地震被害想定や地震・津波対策アクションプログラムを見直し、対策を更に深化させてまいります。

令和7年度の具体的な取組は、以下の3つでございます。まず、道路ネットワークの強靱化として、事業費174億400万円を計上し、伊豆縦貫道の機能を最大化する肋骨道路の整備を推進してまいります。次に、住宅耐震化支援として、事業費5億5,200万円を計上し、耐震シェルター等の導入支援を行ってまいります。次に、孤立地域対策として、事業費23億5,900万円を計上し、避難所の環境改善を行ってまいります。

新たな産業活力の創造についてでございます。将来の産業発展に向けて、「スタートアップ先進県を実現する取組」を強化するとともに、企業立地件数日本一を目指し、企業誘致と産業団地の開発を強化いたします。スタートアップ先進県を実現する取組として、事業費6億8,000万円を計上いたします。新たにベンチャーキャピタルと連携した資金調達支援制度を創設するとともに、東京で「シズオカ・スタートアップ・デイ」を開催いたします。

また、「企業立地件数日本一に向けた取組」として、企業立地件数75件、産業団地を今後10年間で500ha開発することを目標に掲げ、事業費120億6,300万円を計上いたします。私自らのトップセールスによる誘致強化に取り組むほか、産業団地の開発支援にも取り組んでまいります。

次に再生可能エネルギー等の導入促進についてでございます。

再生可能エネルギーのさらなる導入拡大や水素の利活用を強力的に推進するため、次世代太陽電池の導入を拡大し、ペロブスカイト先進県を目指すとともに、山梨県との連携強化により、水素の利活用を促進いたします。再生可能エネルギーの導入拡大のため、事業費2億2,100万円を計上し、次世代太陽電池、ペロブスカイトの導入拡大を進めます。

また、水素関連ビジネスの創出のため、事業費5,800万円を計上いたします。水素先進県である山梨県との連携を強化し、産学官によるプラットフォームの構築をするなど、水素の利活用を促進してまいります。

次に、次世代モビリティの導入促進についてでございます。

新しい空の移動手段となる次世代エアモビリティの先進導入地域を目指し、まずは令和9年度の商用運行開始に向け、ロードマップに基づく取り組みを展開いたします。

また、次世代自動車など、陸海の次世代モビリティへの取組を強化いたします。次世代エアモビリティの取組加速化として、事業費7,000万円を計上いたします。ロードマップに基づいた取組を順次展開することとし、令和7年度には、実機飛行による認知度向上を図ります。

次に、地域交通のり・デザインについてでございます。

日常生活において公共交通を確保できない地域で、公共ライドシェアの導入を積極的に展開してまいります。

また、多様な輸送資源の活用や、共助型交通の導入等により、誰もが移動に困らない社会の実現を目指します。公共ライドシェアの全県展開として、2月補正を含め、事業費1,300万円を計上いたします。ライドシェアの導入状況は、現状13市町にとどまっておりますが、令和15年には、必要とする全市町が導入できるよう、県として市町の導入を伴走支援してまいります。

次に、子ども子育て支援の充実についてでございます。子ども第一主義を掲げ、子ども子育て支援に取り組んでまいります。

結婚、出産、子育てのそれぞれのライフステージに応じた切れ目のない支援を実施します。

また、男女で家事育児を分担し、共に育てる「共育て先進県」を目指します。さらに、声が届きにくい子どもの意見を積極的に政策に反映してまいります。

少子化対策、子育て支援の充実のうち、共育て推進に向けた男性育休の長期化のため、事業費2,400万円を計上いたします。これは全国初の取組として、中小企業で働く男性を対象に、国支援期間経過後も、県独自で上乗せして支援することで、共育てを推進するものでございます。

次に、医療福祉人材の確保についてでございます。

県全域では、医学修学資金制度を活用し、医師の確保定着を促進します。

特に東部地域では、指導医等の派遣などにより、既存病院の拠点化を進めるなど、段階的な医師の確保に取り組みます。

また、介護分野では、生産性の向上と外国人材の確保を強化いたします。東部地域における医師確保対策として、事業費1億円を計上いたします。5年後に医師が80人程度増加することを目標に、浜松医大・順天堂大と連携し、医師確保を推進してまいります。

介護人材の確保、生産性向上として、事業費7億6,800万円を計上いたします。外国人介護人材の介護福祉士資格の取得を支援してまいります。

次に外国人の受け入れと多文化共生社会の構築についてであります。

本県の発展のためには、多様性や異なる価値観を積極的に捉えた上で、本県の活力や成長に繋げていくことが重要なことから、他県に先駆けてICCインターカルチュラルシティネットワークに加盟し、外国人に選ばれる日本一の多文化共生推進県を実現します。

また、お茶や日本酒などの本県の特産品の販路拡大を図るため、UCLG世界都市自治体連合に加盟し、欧州での本県の地位の確立を目指してまいります。これら関連する予算として、ICCネットワークへの加盟などに事業費700万円、UCLGへの加盟などに事業費1,000万を計上いたします。

次に、未来を拓く積極的なチャレンジについてでございます。

本県が直面する課題解決に向けて、時代を先読みした新たな取り組みを「チャレンジ事業」として実施し、事業期間は複数年とし、財源と人員を集中配分いたします。

気候変動に適応した新たな農産物の開発のため、アボカドの産地化を目指し、事業費1,800万円を計上し、4人体制で推進いたします。栽培技術の確立を図るとともに、流通チャネルの確立に取り組んでまいります。

防災業務へのDXを活用する取り組みとして、事業費2,000万円を計上し、10人体制で推進いたします。静岡発の遠隔災害支援システムの構築をするため、3次元点群データを活

用し、被災状況を調査するとともに、国土交通省と連携し、新たな支援体制の構築を図ります。

次に、分野別の取組についてご説明をいたします。

まず、産業交流分野の取組についてでございます。

最初に、お茶関連事業として事業費 8 億 7,300 万円を計上いたします。今年度、今治タオルのブランド化を実現した専門家や若手茶業者による静岡茶リ・ブランディングプロジェクトを立ち上げました。この枠組みを活かし、来年度から本格的な海外展開に向け、世界に通用する統一ブランドを戦略的に構築してまいります。戦略に合わせ、輸出向け品種転換を支援するなど、世界に向けた静岡茶の生産基盤の強化に取り組んでまいります。

次に、観光関連事業として事業費 23 億 6,600 万円を計上いたします。上質な体験の提供による観光誘客を図ってまいります。

次に、しずおかりノバージョンまちづくりとして、事業費 4,200 万円を計上いたします。遊休不動産の再生計画作成など、実践的な講習を行うリノベーションスクールを開催する市町村を新たに支援することで、課題解決を行ってまいります。

次に、F S C等の森林認証の推進として、事業費 6,300 万円を計上いたします。全国有数の面積を誇る認証森林における生産フィールドの確保や、路網整備を支援することで、森林認証の導入拡大に取り組んでまいります。

続いて、教育・文化分野の取組についてでございます。

まず、きめ細やかな教育を実現するための小1少人数支援として、事業費 5,000 万円を計上いたします。支援員の配置による「小1ギャップ」の解消に取り組んでまいります。

次に、富士山の保全と安全登山の強化として、事業費 5 億 1,800 万円を計上いたします。条例による登山規制や入山料の徴収など、富士登山における安全対策に取り組んでまいります。

続いて、健康・安全等の分野の取組についてでございます。

静岡ウェルネスプロジェクトとして、事業費 1 億 2,700 万円を計上いたします。全国 1 位の健康寿命をさらに延伸するため、ウェルネス・フーズ E X P O の開催などに取り組んでまいります。

また、犯罪被害者等の支援として、事業費 4,400 万円を計上いたします。

新たに多機関ワンストップサービス体制を構築するとともに、犯罪被害者や遺族への見舞金制度を創設いたします。

さらに、職員のデジタルリテラシーの向上として、事業費 1 億 7,400 万円を計上いたします。生成 A I ・デジタル技術を前提とした働き方の変革の実現に向け、全職員が生成 A I を活用できる環境を整備いたします。

続いて、国補正予算に関連した 2 月補正予算についてでございます。

地方経済の成長や物価高の克服など、国の補正予算に伴う経費として、566 億を 2 月補正予算に計上しております。

内訳は、地方経済の成長のために 156 億円、物価高の克服のために 84 億円、安全・安心の確保のために 326 億円となっております。

特に、物価高の克服につきましては、事業者支援として、事業費 69 億 9,000 万円を計上いたします。光熱費高騰等の影響を受ける医療機関や福祉施設、私立学校等を支援するもので

ございます。

また、生活者支援として、事業費 14 億 3,600 万円を計上いたします。
食材高騰等の影響を受ける子ども食堂への支援等を実施いたします。

方針 2 行政運営の推進について、ご説明を申し上げます。

「政策の推進に向けた組織体制の強化」についてでございます。

令和 7 年度の組織および職員定数につきましては、県政の重要課題に対して迅速かつ的確に対応できるよう改正に取り組みました。

まず、県政の基本理念に掲げる L G X の推進のため、知事直轄組織および経営管理部を再編し、企画部、総務部、財務部を新設することといたします。

企画部では、政策の企画立案や部局横断調整機能の強化、総務部では、人事組織のマネジメントや市町との連携、財務部では、将来を見据えた健全な財政運営や行財政改革に取り組んでまいります。

次にこども施策の一体的な推進体制の構築でございます。

こども、若者と子育て家庭への切れ目のない支援を展開するため、健康福祉部にこども施策の司令塔として、「こども若者政策部長」を配置するとともに、関連する施策を一体的に推進するため、「こども若者局」を設置いたします。

また、本県経済の活性化に向けては、スタートアップ支援と企業誘致体制の強化を図ってまいります。

最後に中期財政計画でございます。冒頭の二つの元年でも申し上げました通り、新たな取組を積極的に進めるため、令和 7 年度から 16 年度の 10 年間で計画期間とする中期財政計画を策定いたしました。計画では、国基準に加え、県独自の財政運営の指標を設定し、計画的な財政運営をすることとしております。特に 10 年間で、県債残高 1,000 億円の削減を目標に取り組んでまいります。

これら目標を達成するため、歳出歳入、いずれも徹底した見直しに取り組むこととし、令和 7 年度当初予算編成においても、必要性や維持コスト等を考慮し、知事公舎の売却を決定するなど、見直しを行っているところであります。

今後も計画に沿った財政運営に取り組む所存でございます。私からの説明は以上でございます。

(司会)

ありがとうございました。それでは質疑に入ります。幹事社の静岡新聞社さん、お願いいたします。

(記者)

12 月幹事の静岡新聞の青島と申します。よろしく願いいたします。

今回は知事就任後初めての当初予算編成となりましたが、今回の予算の特徴を踏まえて知事がネーミングするとしたらこの予算は何という名前になるでしょう。

(知事)

事前に準備をしておりました。スタートダッシュ予算と命名をさせていただきました。

これからの 4 年間の本格的なスタートをする年でもございますので、先ほど申し上げました総合戦略も含む 8 つの重点取組等を、しっかりと予算作りして施策を迅速に進めていくと

ということで、スタートダッシュ予算と、意気込みも込めてこう名づけさせていただきました。

(記者)

ありがとうございます。

1兆3,723億という過去最大の予算編成となりましたけれども、この中でも特に知事が力を入れた政策分野というのがもしございましたら、いくつか挙げていただければと思います。

(知事)

全体としてですね、冒頭にですね、今年はチャレンジ元年と財政改革元年というふうに位置づけまして、まさにチャレンジ元年として、いろんな課題をスピード感を持って対応していくということで、特に総合計画への8つの重点取組に集中的に予算配分しましたし、また、未来を拓く積極的なチャレンジとして、部局から上がってきた提案に対しても重点的に予算配分しました。こうしたところがですね、重点分野というふうに思いますし、併せてやっぱりこれからの将来の県を考えた場合、財政健全化に向けて、取組をスタートさせていきたいと思っております。

(記者)

ありがとうございます。

特徴的なところとして、産業分野に新規だったり拡充の予算というのがたくさんついているようにお見受けします。スタートアップは常々、誘致を図りたいということをおっしゃっていますが、ファンドサポート、並びに企業立地に向けた思いを改めてお聞かせください。

(知事)

市長時代16年間、様々な施策をやってまいりまして、特にスタートアップでありますとか、企業誘致、産業政策というところに力を入れてきて、自分なりに効果があった、成果があったということは自分の体験として持っております。それをこれから全県に広げていきたいということで、これまで積み上げてきた知見・経験を生かして、スタートアップ施策を全県に展開することとあわせて、各市町も今非常に熱心に取り組んでいる企業誘致等を、市町とともに、連携してしっかり取り組んでいきたいというふうに思っております。

(記者)

幹事社質問これで最後ですが、先ほどおっしゃった財政改革元年というところで、中期財政計画について予算発表と同日に発表されたというところに、知事の意欲の現れがあるのかなと思っておりますが、同時に発表した狙いや思いというところをもう一度聞かせてください。

(知事)

今年から中期財政計画を策定して、計画的に財政健全化に向けた取組をしていくということは前から申し上げてきたもので、予算と表裏一体のものでございますので、やっぱり予算と同時に発表するのがベストだろうということで発表させていただいたところでございます。

(記者)

1点、追加で申し訳ございません。現状の県の財政、浜松市から見たときとはまたちょっと違うような状況かなとは思いますが、県の財政状況というのは、財政当局からすると厳しいという言い方をされたりとか、県議会からもそういう指摘はあるんですけども、

知事のご認識として、現在、現状の県の財政運営というのはどういう状況にあるんでしょうか。

(知事)

もちろん県と市では、財政規模も違いますし財政構造も違ったりですね、役割も異なるわけですけども、そうしたことを差し引いても、やっぱり今の状況というのは、かなり厳しい状況にあるなというふうに思いますので、これをこのままですね、ずっと放置して、今のままいきますと、近い将来かなり厳しいもっと厳しい状況になると思いますので、今のうちからやっぱりしっかり手を打っておく必要があるというふうに私は認識をしております。

(記者)

ありがとうございました。幹事社からは以上です。

(司会)

その他のご質問がある方はいらっしゃいますでしょうか。

(記者)

静岡朝日テレビです。よろしくお願いします。

財政健全化に向けて伺いたいです。大型施設の見直しというところも一つあると思うんですけども、具体的にどのようにされていくのか教えてください。

(知事)

やっていかなければならないんですけども、いろんな関係者もございますし、あるいは議会ともですね、丁寧にこれは議論していかなければいけませんので、しっかりと様々な皆さんからご意見や県議会の意見も踏まえまして、今後、それぞれの取り扱いについて検討していきたいと思います。

(記者)

具体的にはどのような施設で見直しが必要だというふうにお考えでしょうか。例えば野球場だったりとか何か見直さなければいけない施設。

(知事)

これから計画をされている大型プロジェクトがいくつかございますので、それぞれについて、予算を交えて検討する必要があるかなというふうに思っております。

(記者)

それに関連して入札不調となって、開業の遅れが確実となった県立中央図書館についての見直し方針というのはいかがでしょうか。

(知事)

今、再度の入札に向けた準備もしてますし、ただここへ来て、やはり建築の状況や社会的な状況も変わってきておりますので、必要があればですね、もう一度見直すということも含めて、今後、しっかり検討していきたいと思っております。

(記者)

もう一点、以前も伺ったことで恐縮ですが、組織改編に関連するかと思いますので伺います。副知事2人が辞表を提出しました。これについて新たな人事案の提出方針など現段階での情報と、候補となっている2人の選任理由や期待することありましたら教えてください。

(知事)

これから議会にきちっとご説明をしていくことでございますので、現時点で具体的なことは申し上げられません。以前から申し上げております通り、現副知事2人がですね、辞任をされるということで、新たな副知事を選任をしていくということで、それにつきまして、今議会にですね、その理由を含めて議案として提案をすることとなっております。

(記者)

テレビ静岡です。お願いします。今の質問とかぶるんですが、中期財政計画の大規模プロジェクトの見直しのところに野球場整備と明言されていますが、この野球場整備の見直しというのはこういった方向で考えているのでしょうか。

(知事)

協議会が設置をされましたので、浜松市さんと静岡県でしっかり詰めていくと、その際は、民間からいろんなご意見やご提案をいただいて、それによってどれくらい、どういう規模のどういう施設にしていくのかということをもまず決めなければいけませんし、それを決めた後、民間投資がどれくらい入ってくるかということも含めてですね、そのあと県と市の投資の負担割合をどうするかとか、いろんなことをそこから決めていくということになろうかと思えます。

(記者)

この野球場というとスズキの鈴木修元相談役の肝いり事業としても知られていましたし、鈴木知事自身も市長時代はドーム型の球場を求めていましたが、ここにきての見直しというのは、少しちょっと聞きづらい点もございしますが、元相談役が亡くなられたということも少し影響しているのでしょうか。

(知事)

前から相談役がご存命のときから見直しは表明しておりましたし、県と市でしっかり協議会を作って中身を詰めていくことも方針として出しておりましたので、一切そういうことは関わりはございません。

(記者)

ありがとうございます。

(司会)

その他ございますでしょうか。

(記者)

中日新聞の鈴木と申します。副知事人事で改めて伺いたいんですけども、今日の議会運営委員会で、副知事お2人のお名前が上がって公表されたと思うんですけども、知事とお2人の関係性というか、なぜ選ばれたのかももう一度伺いたいです。

(知事)

議会がこれから始まりますので、そのときにきっちりご説明したいと思います。今日は、回答を差し控えたいと思います。

(記者)

当初予算についてなんですけれども、チャレンジと財政計画という二つの両面でやっていくかと思いますが、財政が厳しい中で、チャレンジというのと、抑えるところは抑えるというところで意識されたところはどのようなところでしょうか。

(知事)

やはり未来に向けて積極的に投資をするべき分野については、そこは必要な予算をしっかりと当てていくと。ただ一方で、徹底的にいろんな事業を見直して、削るべきところは削り、しっかりメリハリはつけていくということで今回予算に対応してまいりました。

(司会)

他にございますでしょうか。

(記者)

日経新聞の佐々木と申します。よろしくお願ひいたします。

当初予算編成の方針などについて伺いたいですけれども、今回スタートダッシュ予算ということで、知事として初の予算編成だと思えますが、川勝前知事時代の予算編成方針などと比べて、特に変わった点、あるいは意識した点などがあれば改めて伺ってよろしいですか。

(知事)

特に前知事を意識して編成したということはありません。むしろ、今までの私の経験等含めて、そうしたものを活かして、県政を発展させるために何が必要かという観点で、いろんな新規事業等も計画させていただきました。

(記者)

関連して、先ほどチャレンジ事業等、あとはその抑制するべき部分というような質問があったかと思うんですけれども、今回の当初予算編成において、前年度から今年度、24年度の予算事業から抑制した具体的なポイントなどがあれば伺ってもよろしいですか。

(知事)

やはり大きなこととして全体の投資的経費です。こうしたものをしっかり精査をしていくと不要な事業はないか、不急の事業はないかということ等を、やっぱり見直していく必要があると思いますし、そうしたことを含めて、全体の歳出構造の見直しをしていかなければいけないというふうに思っております。

(記者)

この投資的経費のところ、特に何か例えば止めたところがありますか。

(知事)

特に具体的にここということではなくて、全体として見直していくということでございま

す。特定の事業について、私がここで申し上げることはございません。

(記者)

あと、重点項目の一つスタートアップ施策のところ、いわゆるファンドサポート事業、全県版みたいなものを来年度から本格的に始まると思いますが、改めて伺いたいの、企業立地件数に関しては目標があったんですが、どこかで伺った気もするんですが、スタートアップの誘致などに関する数値目標があれば、またお伺いしたいです。

(知事)

それはございます。正確な数字は今ここで申し上げられないので

(石川政策推進担当部長)

後ほど確認してお伝えします。

(記者)

最後にすみません、中期財政計画のところ、前々回くらいの定例会見で伺った気もしますが、県債の一般債の残高の削減目標が、1000億円というところで目標掲げられておりますが、一方で、これからどんどん金利とか利払い負担が上がっていくという中で、1000億円程度の削減で、年度ごとの利払いの負担額が実際減るのかどうかというのが少し疑問なところでして、この金利上昇などを踏まえた県債の発行計画だったりとかそのあたりはいかがでしょうか。

(知事)

今回の追加利上げを含めまして、2回分の政策金利の引き上げは想定して織り込んだ上で計画になってます。一定程度金利が上がる世界に入ってきたというのは、当然我々も想定していることでございますので、一定程度の政策金利の上昇は見込んで計画をしております。

(司会)

この他にございますでしょうか。

(記者)

朝日新聞の青山と申します。中期財政計画についてお伺いしたいんですけども、まず一つがですね、財政運営の目標でいくつか掲げられていると思うんですが、例えば他県と比較してですね、この数値については、例えば平均以上とか上位にしたいとかですね、なにかそういった他県と比較したなにか目標があればお伺いしたいのと、あと、今後4年間を改革強化期間と位置付けて集中的に見直すということなんですが、例えば未利用財産の売却だったり、ネーミングライツの導入といったような歳入の部分、規模感としてどれぐらい見込んでらっしゃるのかとか、あるいは歳出の部分で、施設の見直しとかいろいろとされていくと思うんですけども、どれぐらいのコスト削減、これから詳細詰めていくと思うのでなんともしゃべれないと思いますが、ざっくりこれぐらいみたいなのがもしあれば伺えればと思います。

(知事)

他県と比較するものではございませんので、特に他県と比較してどうこうではありませんけれども、全府県の中でですね、県の財政状況はかなり低い方、悪い方というふうに認識をしております。ですから他県と比較するというよりも、将来に向けてですね、やっぱり健全

財政の基盤を作っておくということが必要でございますので、そういう方針で臨んでいきたいと思っております。今何をどれくらい削るかということが、今ここで申し上げることはありませんけれども、2つの目標を設けておまして、一つは、10年間で1000億程度の県債を削減をしていくということと、そのために、単年度のプライマリーバランスを黒字化していくということの二つを基準として、あらゆることを見直していくということですので、今の基準をもとにですね、歳出をあらゆる面で見直すということになろうかと思っております。

(記者)

たとえば、ネーミングライツは、今確か動物愛護施設とかを検討されていますが、他にどんなものを考えてらっしゃるのかっていうものがもしあれば。

(石川政策推進担当部長)

具体的にこの施設を考えているというのは、今ここでご説明できませんが、いろいろなものの可能性を探っていきたいと思っております。以上です。

(記者)

例えば、この施設っていうのは難しいかもしれないですが、なんとなくどんな物が、というものがあれば。

(石川政策推進担当部長)

そこも含めて、企業の方から、効果なり期待が見込める施設を選定していかなければいけないと思っておりますので、そういったことを踏まえながら、これからしっかり考えてまいりたいと思っております。以上です。

(司会)

他にございますでしょうか。

(記者)

静岡新聞の佐野と申します。新規の医師確保の対策についてお聞きしますが、知事は選挙中、また就任後も医師確保に向けての発言を何度かされていたと思っております。今回新規の事業として取組の一つに入れましたが、そのへんの知事としての取組への思いをぜひお聞かせください。

(知事)

はい、わかりました、私なりにいろいろ知事になってからも調べてみまして、やはり医師の数を増やすだけではですね、医療の環境が充実したところでどうしても医師は行ってしまうので、偏在が解消できないということなので、数だけ増やしても駄目だと。だから、やはり医師が不足をしているところなるべくお医者さんを置いてもらう、特に若い医師を派遣をしようということになりますと、そのお医者さんのキャリアアップを考えていかなければいけないんですね。

その人たちもこれからの自分の将来がありますので、当然自分のキャリアを考えたときに、そうしたキャリア形成について非常に恵まれた静岡とか浜松とかそうしたところにですね、ほっとけば行ってしまうわけですね。

ですからそういう人たちが、今、医師が不足してるような地域でも、安心して自分のキャリアが積めるようにするためには、そういう人たちのための指導医を、しっかりとその地域

に派遣をして、拠点病院をちゃんと作ってですね、そこに若い人たちに来てもらって安心してキャリア形成をしてもらって、キャリアアップしてからその地域の医療を担当してもらうということで、定着をさせていくということをやっていないと、数だけ増やしても駄目だということがよくわかりましたので、浜松医大そして順天堂大学さんをお願いをして、例えば医師不足の東部地域等へですね、ぜひ指導医を派遣してくださいということで、いま、両大学とですね、その調整をしているところがございますので、これは1年2年ではですね、なかなか効果が出てきませんが、少し時間をかければですね、確実に医師が増えていく、ある意味唯一の方策ではないかというふうに思っていますので、この部分に特にこれから力を入れていきたいと思っております。

(司会)

この他にございますでしょうか。

(記者)

建通新聞社の白幡です。よろしくお願ひします。新たな産業活力の創造について伺いたいですけれども、今後10年間で、500ヘクタール開発していきたいということが書かれておりますが、県内のどこにその産業団地を開発していきたいかという具体的な展望があれば教えていただきたいということと、県内のどの地域にその需要があるかというのをですね、どう見られているかについてお伺いできればと思います。

(知事)

これはですね、申し訳ないんですけれども、いろんな市町と一緒に可能性がどこにあるかということ調べて、既に計画を進めているところありますけれども、ここで私が全てについて把握していませんので、後ほど担当の方から、細かな全県の取組状況とか、今後の取組予定等をですね、お知らせさせていただきたいと思ひます。

(記者)

静岡新聞です。先ほどの医師の話にも絡むんですけれども、防災の部分も含めてなんですが、やはり伊豆半島を想定した取組というのがかなり多いのかなと思うんですけれども、改めてその伊豆半島や東部地域への知事の思ひ入れというところをお伺ひしたいです。

(知事)

大きくは二つあると思うんですね。今言った医師確保ですとか、防災ですとか東部伊豆が抱えている課題に対してしっかりと真摯に向き合っこれを解決していくということと、東部伊豆地域はいつも申し上げておりますけれども、いろんな資源やポテンシャルが非常に大きな地域でありますので、それをですね、ぜひ活かしていく、積極的な取組が一方で必要だと思ひています。

特に伊豆は観光産業が柱となりますので、従来型の観光だけではなくて、富裕層向けのいろんな施策ですとか、新たなスタートアップと連携した取組でありますとか、新しい視点で観光を盛り上げていくということで、あるいは東部地域でですね、企業誘致をどんどんしていくということとありますとか、あるいは空飛ぶ車のような先進先端技術を導入する予定もございまして、そういういろんなそれぞれの地域の持つポテンシャルを活かしてですね、積極的に地域の発展を考えていきたいというふうに思ひしております。

(司会)

他にありませんでしょうか。最後の1人ということにさせていただきたいと思います。

(記者)

総括的な質問ですが、昨年も前知事にお聞きした質問なんですけれども、今回初めての予算編成ということで採点をするとしたら何点でしょうか。前は優良可みたいな形で言っていたんですけど、点数を付けるとしたら何点という形になるのでしょうか。

(知事)

100%満足ということはありませんので、まあただ今の状況下ではですね、いろいろ工夫したかなということでございますので、何とか優はいけるかなと、これからそれをいかに実施していくかというところが大事ですけども、まあそんなふうに感じております。

(司会)

それではこれで会見を終了させていただきたいと思います。
ありがとうございました。

(知事)

どうもありがとうございました。